



## 「日常生活に広がるエコ情報の活用」

北海道大学大学院工学研究院 准教授 高野伸栄

最近の自動車のエコ度は一頃に比べると、隔世の感がある。

ハイブリットカー、電気自動車、カタログ燃費ではあるが40km/lにも迫る軽自動車などが街中にどんどん増えている。

ハイブリットカーに乗ると、運転のエコ度が示され、毎日の燃費をメールで送られてくるようにすることもできる。日常、お父さんが燃費のことを気にして、運転をしているのを目にしていれば、子供たちもエコのことを気にかけずにはいられなくなる。

電車の乗り継ぎを調べるため、乗り換え検索を行えば、選択肢ごとの二酸化炭素排出量が示される。札幌市では地下鉄ホームからのぼる階段に、階段を上がることによる消費エネルギーが表示されている。

このように、IT技術等の発達と世の中のエコ度の高まりによって、日常の生活の色々な場面で、自分の行動とエコとの関わりを示す多くの情報が提供されるようになってきた。

いうまでもなく、環境意識を育て、それを実践につなげていくためには、情報提供と実践のフィードバックプロセスが大切だ。時間的に限られる交通環境学習の時間だけでそれを行うには限界があり、これらの情報を生かさないのはもったいない。

これからの交通環境学習は、それだけで完結させるものではなく、これらの情報を気づかせ、その意義を考え、自分の行動との位置関係を認識させる場としてとらえ、それに向けたプログラムを取り入れていくことが重要なのではないだろうか。